

令和7年度 施設自己評価



園名 神明町保育園

評価日 令和8年3月31日

評価基準

A(大変優れている)：施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態
B(適切である)：計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態
C(改善が必要)：取り組んでいないものの、さらにより良くするための課題や見直す点がある状態
D(早急な対応が必要)：基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた早急な対応や改善が必要な状態

No	項目	内容	評価 (A/B/C/D)	意見・改善案
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	B	全体の計画や理念、保育方針は明文化されていて共有理解されている。リーダー会議・職員会議・ブロック会議等でHIROKOメソッドの取り組みや全体的な計画、年間指導計画についての作成と話し合いをおこなっている。
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	B	
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A	
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	B	
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	B	全国保育士倫理考慮・児童憲章・個人情報保護マニュアル・NG用語行動・虐待マニュアル・足立区教育・保育の質のガイド来などに基づいた園内園外研修に取り組んでいる。昼礼や職員会議で子どもの様子や保育について話し合い、不適切保育への対策は引き続き重点項目として学びの機会を設けていく。
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	B	
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	A	
9	愛着形成	保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	A	全に担当制ではないが、子どもとの相性なども鑑み、信頼関係を築きながら個々の援助をおこなった。
10		子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)。	A	
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	A	
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	年齢ごとの発達にあった遊びの設定をしているが、今後も職員間で話し合い成長に繋げられる環境を設定していく。整理整頓が不十分と感じられる点は、子どもの環境にそしているかを考え適切な環境設定整備を行っている。
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B	
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	A	緊急時災害時対応マニュアル・SIDSチェック・保健計画・感染症マニュアルによる研修や健康チェックや検診報告・遊具点検チェック・緊急時職員体制・緊急時職員体制・緊急時フローチャート・避難訓練・BCP計画・学校安全計画等での対応している。また、食育計画に基づいて活動にも工夫しており、今後も積極的に取り組んでいく。
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	A	
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A	
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
20	教育・保育計画	アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	緊急時災害時対応マニュアル・SIDSチェック・保健計画・感染症マニュアルによる研修や健康チェックや検診報告・遊具点検チェック・緊急時職員体制・緊急時職員体制・緊急時フローチャート・避難訓練・BCP計画・学校安全計画等での対応している。また、食育計画に基づいて活動にも工夫しており、今後も積極的に取り組んでいく。
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	B	
22		乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	A	
23		全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	A	
24	教育・保育計画	一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	B	全体的な計画から年間指導計画、月案、週日案への落とし込みをし、個々の発達状況に応じた配慮や促しをしている。小学校への連携として、定期的な連携会議を通して継続的な支援を行うと共に保育要録を作成し、就学前には学校教諭との面談で一人一人の情報共有をしている。
25		長期欠席の子ども状況把握をしている。	A	
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	B	保育所保育指針・保育要領・全体の計画・経営ビジョン・教育保育目標・保育指針を保護者に伝え、計画に基づいて取り組んでいる。行事後のアンケートや1年に1回行う保護者アンケートでは93%であった。いただいたご意見・要望を真摯に受け止め、よりよい保育内容・保護者とのより良い官憲に努め努力をしていく。
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	A	
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	B	
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている。	B	
30	幼保小連携	利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	A	就学に向けて要録を持参し、小学校と情報共有を図っています。就学を見据えた活動を取り入れ、より滑らかな接続を意識した支援を行っています。また、専門機関の助言を受けながら、園全体で支援方針を共有しています。保護者との面談を重ねて、家庭と園とで支援をチームで行っていきます。今後も小学校との関わり合いも多く取り入れていきたいと考えています。
31		保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	A	
32		児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	B	
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	A	
34	特別支援	0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	A	就学に向けて要録を持参し、小学校と情報共有を図っています。就学を見据えた活動を取り入れ、より滑らかな接続を意識した支援を行っています。また、専門機関の助言を受けながら、園全体で支援方針を共有しています。保護者との面談を重ねて、家庭と園とで支援をチームで行っていきます。今後も小学校との関わり合いも多く取り入れていきたいと考えています。
35		記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	A	
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	A	
37	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	B	保護者アンケート・行事アンケートなどの回答から、より良いものになるように取り組んでいる。ご意見を真摯に受け止めてより良い園づくりを目指している。
38		子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	A	
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	B	
41	健康・安全(事故防止)	利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	B	安全計画の運用やヒヤリハットの分析を行い、事故防止に努めています。法人内での情報共有を活用し、事故防止に取り組めます。さらに安全管理の徹底をおこないます。職員一人一人の自己評価、施設評価の結果を分析し、話し合い改善を行っています。
42		安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	A	
43	苦情解決・個人情報保護	事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	A	安全計画の運用やヒヤリハットの分析を行い、事故防止に努めています。法人内での情報共有を活用し、事故防止に取り組めます。さらに安全管理の徹底をおこないます。職員一人一人の自己評価、施設評価の結果を分析し、話し合い改善を行っています。
44		苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	A	
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	A	
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	A	
考察		今年度は第一に考え、日々の保育の振り返りや職員間の話し合いを通して、一人一人の子ども思いや行動の背景を共有する取り組みを行いました。子どもの主体性を大切にしたい関わりをしてきました。今後は、こうした取り組みを継続しながら職員同士の学び合いを深め、子どもが自ら考え、行動出来る環境づくりや関わり方について組織的に取り組むことで、保育の質のさらなる向上につなげていきたい。		